

SSH重点枠オランダ海外研修・調査

今年度で3回目となるSSH重点枠「オランダ海外研修」が2014年8月9日(土)～17日(日)の日程でオランダのライデンで行われた。昨年度までは国立自然史博物館において「長崎県の昆虫電子図鑑(シーボルトコレクション)」製作のための標本のデジタル化の作業をメインに行っていた。しかし、今年度はライデン大学とアムステルダム大学の標本管理統合作業が実施されていたため、下記の日程で全行程日本語ガイドを付けずに、英語ガイドによる解説や質疑応答を含めた研修を実施した。

8月11日 国立自然史博物館 標本室・展示室

8月12日 国立自然史博物館 標本室・展示室

8月13日 ライデン大学植物園

8月14日 国立民族博物館・シーボルトハウス

8月15日 国立公園デ・ホーヘ・フェルウェ

期間 2014年8月9日(土)～17日(日)

場所 オランダ国立自然史博物館 ほか

調査団構成

①生徒(長崎西高等学校 2年 男子3名 女子2名)

魚谷 周平 澤本 直希 水戸 航旗

近藤 彩奈 篠原 真智子

(諫早高等学校 2年 男子2名 3年 男子1名)

宮本 遼平 松尾 翔大 森田 瑞喜

②引率教諭

長崎西高等学校 教諭 川下 秀一

諫早高等学校 教諭 井上 真一

③調査団専門家

九州大学農学部昆虫学教室 准教授 紙谷 聡志



国立自然史博物館 標本室にて

一つ一つ丁寧に説明していただきます



国立自然史博物館 標本室にて
滅多に閲覧できない貴重な経験。



国立自然史博物館 標本室にて
撮影も慎重に・・・

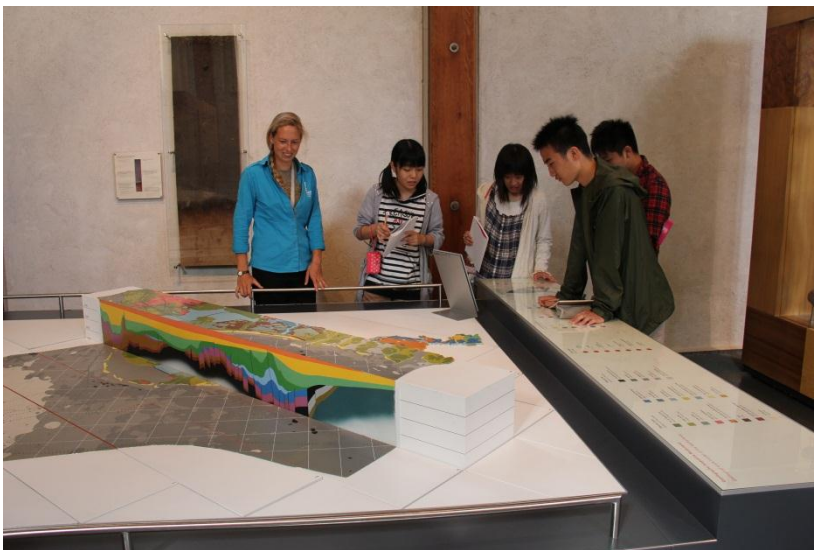


国立自然史博物館 標本室にて
Siebold の文字が印象的です。



国立自然史博物館 標本室にて

厳重に管理されています。



国立自然史博物館 展示室にて

オランダの地質構造に興味津々。



国立自然史博物館 展示室にて

展示物の豊富さに圧倒されます。



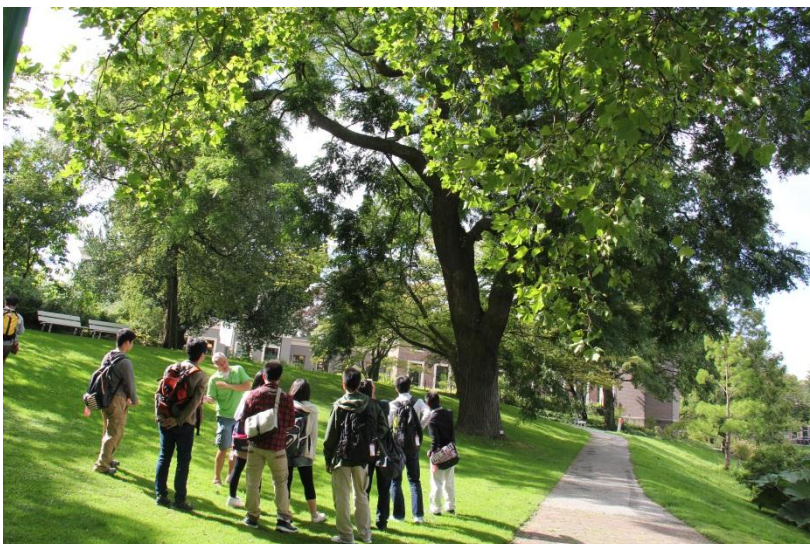
ライデン大学植物園にて

天候にも恵まれました。



ライデン大学植物園にて

シーボルト像とオタクサ。



ライデン大学植物園にて

英語による説明に聞き入ります。



国立民族博物館にて

オランダから見た出島。



国立民族博物館にて

当時の国交に思いを馳せます。



シーボルトハウスにて

日本とオランダの強いつながり。



国立公園デ・ホーヘ・フェルウェにて
昆虫観察に没頭しました。



国立公園デ・ホーヘ・フェルウェにて
ここにもいるよ。

調査記録

8月11・12日 国立自然史博物館 標本室・展示室

国立自然史博物館の標本室を訪問し、シーボルトコレクションの昆虫標本の取材を行った。チョウや甲虫を中心としたシーボルトコレクションの詳細な説明を受けた。世界に初めて紹介されたナガサキアゲハをはじめとする様々な標本が、180年前のものとは思えないほど鮮やかな色彩を保ち続けており、厳密な管理体制の元での保管システムの重要性についても学ぶことができた。

また、国立自然史博物館の展示室では、博物館専属ガイドからオランダの自然に関する展示物を中心に英語による詳細な解説を受けた。英語を母国語としない国の中では特に英語が堪能であるオランダらしく、専属ガイドの英語による説明もかなりスピーディーで、研修がスタートしたばかりの頃は、なかなか英語での質問も行えなかった生徒たちも、徐々に緊張もほぐれ疑問点を積極的に質問する様子が見られた。

8月13日 ライデン大学植物園

ライデン大学植物園での研修を行った。ここでも英語ガイドの方からの説明および質疑応答が活発に行われ、参加生徒の国際性を育むことにつながったものと思われる。園内は温室と分類ごとに分けられた屋外庭園とかなっている。屋外庭園の一部はシーボルト記念庭園として日本庭園風に造園され、オランダに居ながらにして日本文化を肌で感じることができる非常に不思議な空間だった。

8月14日 国立民族博物館・シーボルトハウス

午前中は国立民族学博物館にてインドネシア～中国および日本などアジアの民族文化を中心に英語による説明を受けた。特にシーボルト由来の品々や地元長崎にあった出島についての解説を生徒は熱心に聞いて、当時のオランダの人々の目に日本がどのように映っていたかを学ぶことができた。午後はシーボルトハウスにてライデン大学の教授による説明を受けた。シーボルトが日本から持ち帰った昆虫標本以外の多くの品々が展示されており、生徒は日本とオランダの繋がりの深さを改めて感じ、シーボルトに関する研鑽をより深めることができた。

8月15日 国立公園デ・ホーヘ・フェルウェ

ライデンから約2時間ほど離れたところにあるオランダ最大の国立公園デ・ホーヘ・フェルウェで昆虫および自然観察を行った。5500ヘクタールもの面積があるために、無料のレンタサイクルに乗って昆虫の採集・観察に各々没頭していた。昆虫の種類としては日本で見られるものに近い種が多く、気候も夏が終わり気温も急激に低下する時期と重なっていたためか珍しい昆虫との出会いは叶わなかった。しかし、日本では滅多に見ることのできない奥深い原生林や広大なヒースを目の当たりにし、日本との植生の違いも実感することができた。

